

(2) 延伸地域全体の現状と課題

全体概要

(資料：岩槻まちづくり区民検討委員会提出資料含む)

(2) 延伸線全体の現状と課題

地下鉄7号線延伸線の全体概要 < 3駅プラス1駅周辺の現状・課題の整理と今後の検討テーマの総括表 >

地下鉄7号沿線予定されている「3駅プラス1駅(臨時)」周辺：3駅の役割・機能を明確にしてまちづくりを進める。				
	浦和美園駅周辺(整備中)	スタジアム臨時駅周辺(整備中)	中間駅周辺	岩槻駅周辺(既成市街地+既設駅との結節)
駅周辺の検討テーマと地域づくりの寄与	<p><ニュータウンの建設促進> 副都心の形成 まちづくりの加速に寄与</p>	<p>スポーツ基地づくり 円滑なイベント開催に寄与</p>	<p>地域資源の有効活用 新産業拠点振興に寄与</p>	<p><歴史市街地の再生> 副都心の形成 副都心賑わいづくりへの寄与</p>
現状と特性	<p>駅周辺開発の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際アメニティタウン構想として「みそのウイングシティ」を事業中 H11.6 都市計画決定、土地区画整理事業約310ha 計画人口 31,200人(3地区) <p>まち開きと大型商業施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年4月に「みそのウイングシティ」のまち開きと大型商業施設が開設され、商業拠点を形成 <p>浦和美園駅(開業H13.3)乗降客数</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗車人数 H20年5,400人/日 H21年5,100人/日 H22年5,200人/日 西口駅前広場整備中(H24年度末完成予定) 美園小学校(仮称)H24.4開校予定 	<p>施設規模</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市計画公園として計画決定 31.4ha 収容可能人数 63,700人 <p>駐車可能台数*合計</p> <ul style="list-style-type: none"> 正面駐車場 500台 北第1駐車場 100台 北第2駐車場 40台 東駐車場 400台 <p>スタジアムの活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 浦和レッズのホームスタジアム 平成22年観客数約89万人/年 浦和美園駅から歩行者専用道路約1.2km(徒歩約15分) 	<p>土地利用の混在</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間駅が予定されている周辺は、集落地と軽工場及び農地が混在しており、適切な土地利用誘導が必要 <p>地元企業の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 園芸産業や軽工場、一部産業処理施設や物流施設があり、地元産業の振興策が重要 <p>地域資源の点検</p> <ul style="list-style-type: none"> 目白大学 学生1,223名 職員110名 目白大学クリニック 来院数100名/日 地域に点在する歴史・文化・自然資源の活用が重要 <p>交通空白地区</p> <ul style="list-style-type: none"> 和土団地 	<p>高齢化</p> <ul style="list-style-type: none"> さいたま市内で岩槻区が一番 <p>駅前商業の衰退</p> <ul style="list-style-type: none"> 商業機能の核となるキーテナントの撤退 <p>従業人口の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝統産業である人形製造がH9年からH18年までに従業者数で249人、約1,400億円減少。また、岩槻区の従業者数もH8からH19年の間に約1割減少 <p>観光客数の推移</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩槻観光客数 近年は年間約125万人で推移している。
主要な課題の整理	<p>ニュータウン建設の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 延伸計画を契機に、岩槻駅(副都心の形成)を含む3駅プラス1駅の地域連携を強化し、ニュータウンの建設促進を図ることが課題 <p>副都心の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口定着を促進しつつ、地域の副都心となるような地区整備が課題 国際アメニティタウンとしての機能形成 公共複合施設の早期建設 	<p>スポーツ拠点の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 埼玉スタジアムをはじめ、スポーツ施設が集積する拠点づくりが課題 多様なイベント開催に向けての企画提案(スタジアム外を含めた企画提案) 防災拠点機能の強化 <p>自動車交通対策</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント開催時における自動車交通対策、特に駐車機能の強化が課題 	<p>土地利用の誘導策</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間駅設置と計画的に整備する区域を明確にし、土地利用の計画的な誘導策が課題 <p>新規産業の誘致策</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規産業分野の業種選定と企業誘致策が課題 <p>地域資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間駅周辺の地域資源のリストアップと活用方策が課題 	<p>駅前商業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史と伝統のある中心市街地の再生が課題 再開発ビルへの区役所移転に伴う区役所跡地利用が課題 <p>産業振興への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩槻区全体の産業振興策が課題 人形の芸術文化の振興、海外展開 <p>観光振興への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光・交流人口を確保する施策展開が課題
課題解決に向けての検討テーマ	<p>総合的なまちづくりの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 副都心形成に資するような総合的なまちづくり(「みそのウイングシティ」に基づく、まちづくりの展開) 延伸地域のイメージ向上を図るような各種イベントの展開(終端駅から延伸される効果の活用) 他地域(横浜 etc)のイベント等との連携 国際化への道のりの検討 東京ドーム(後楽園)と埼玉スタジアムのスポーツ交流 	<p>総合的なスポーツ拠点の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 埼玉スタジアムを核に、スポーツ施設が集積する総合的な拠点づくり <p>総合的な交通対策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント開催回数の増加による鉄道利用の促進・3駅周辺の駐車場活用によるパークアンドライドの展開 芝面以外の施設スタンド・放送設備等活用、周辺公園区域や駐車場の活用 	<p>中間駅を核にしたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいまちづくり(健康・福祉・医療等)の展開と既存集落・園芸産業との融合 <p>新規産業の誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元大学等の連携や核となる企業等の誘致による地元産業との連携 <p>周辺の分布する地域資源のネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間駅周辺の地域資源と周辺に分布する資源の活用と新規産業を併せた地元の振興政策的課題 総合振興計画・都市計画マスタープランへの位置付け、農振農用の調整、都市計画決定の手続き 	<p>駅前商業のにぎわいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地活性化のために重要な要素となる岩槻駅周辺の活性化・利用者の増加 <p>地元企業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 地下鉄7号線延伸区間の地元企業への振興 <p>観光・交流人口の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の観光、レクリエーション施設のネットワーク 多様な観光客を呼び込むための仕掛け 岩槻学等歴史観光・イベントの開催

・岩槻区のあらし

岩槻の歴史・産業等の概要

< 戦国時代 >

- ・ 太田道灌により岩付城(岩槻城)の築城(1457年)と「大構え」の整備

< 江戸時代 >

- ・ 岩槻藩の城下町並びに日光御成道の整備による宿場町として栄える
- ・ 伝統産業である人形と組み紐が発展
- ・ 児玉南柯による私塾「遷喬館」で子弟教育が行われる
- ・ 「時の鐘」の設営



< 明治時代 >

- ・ 廃藩置県により、埼玉県の県庁所在地に「岩槻町」が定められた(1871年・明治4年)
- ・ 岩槻町には庁舎にする適当な建物がなかったため、浦和町が埼玉県の県庁所在地になる。

< 近年 >

- ・ 東武野田線(当時総武鉄道)が開通し、岩槻駅(当時岩槻町駅)が開業(昭和4年11月)
- ・ 昭和29年5月に岩槻・川通・柏崎・和土・慈恩寺・河合・新和の1町6村が合併し、「岩槻町」となり、

同年7月に埼玉県内で13番目になる「岩槻市」の誕生

- ・ 東北自動車道部分開通(岩槻IC開設)(昭和47年11月)
- ・ さいたま市と合併し、「岩槻区」の誕生(平成17年4月)

人口特性

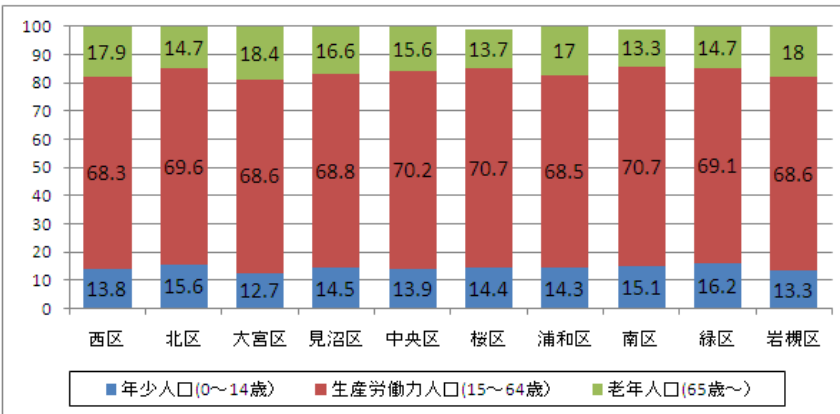
人口の推移と年齢別人口割合

- ・岩槻区及び中心市街地の岩槻地区の人口は、ほぼ横ばいで推移しており、直近の H20 から H21 にかけては微増となっている。
- ・さいたま市 10 区の中では、老年人口割合が高い水準である。

表.中心市街地・岩槻区・さいたま市の人口推移

	H17	H18	H19	H20	H21
岩槻地区	20,018	19,881	19,874	20,001	20,478
岩槻区	111,974	111,658	111,667	111,666	112,026
さいたま市	1,069,051	1,187,225	1,193,456	1,202,101	1,211,657

単位：人



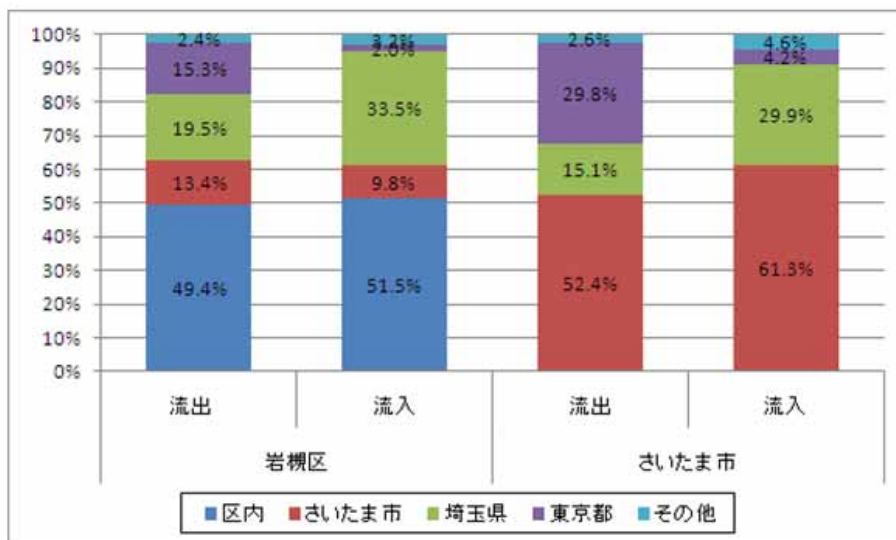
ここで定義する「岩槻地区」は、以下の町丁を指す。
大田 1～3 丁目、仲町 1・2 丁目、
西町 1・2・5 丁目、本町 1～6 丁目、
本丸 1・3 丁目、東町 1・2 丁目、加倉 1・2 丁目

出典：住民基本台帳、国勢調査

図.年齢別人口構成比の推移

通勤・通学先による流出・流入の状況（15歳以上）

- ・岩槻区民の約 5 割近くが区内に通勤・通学しており、岩槻区を含むさいたま市内への通勤・通学は約 6 割となっている。
- ・さいたま市全体では、東京都への通勤・通学者の割合は約 30%だが、岩槻区のみで見ると約 15%となっており、東京都への通勤・通学者の割合が低い。



出典：平成17年国勢調査

図.H17の人口流入・流出の状況

産業

産業分類別従業者数の内訳

・岩槻区の従業者数は、岩槻工業団地の存在等から製造業のウエイトが 28%と高いことが特徴である。

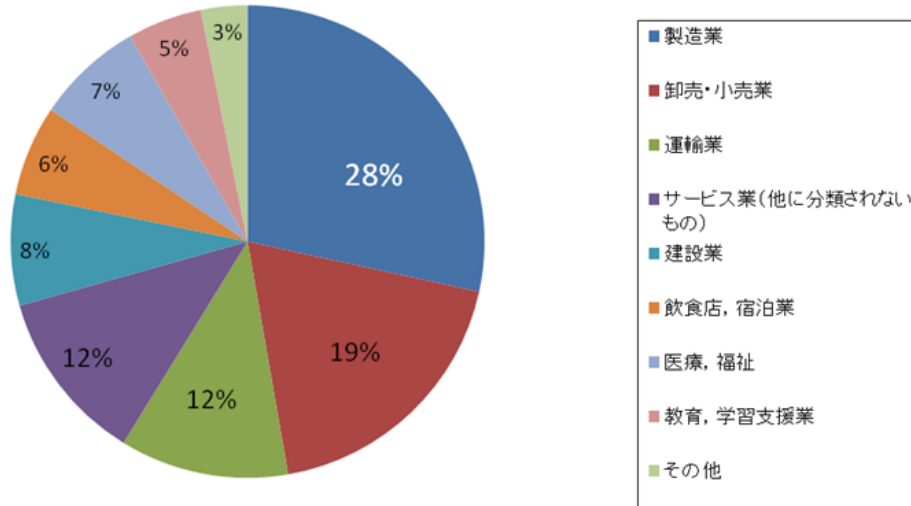


図.産業分類別の従業者構成比

出典:事業所・企業統計(H18)

製造業の従業者数・年間製造品出荷額の内訳

・製造業の中でも、食料品・輸送用機械の従業者数及び年間製造品出荷額が多くなっている。

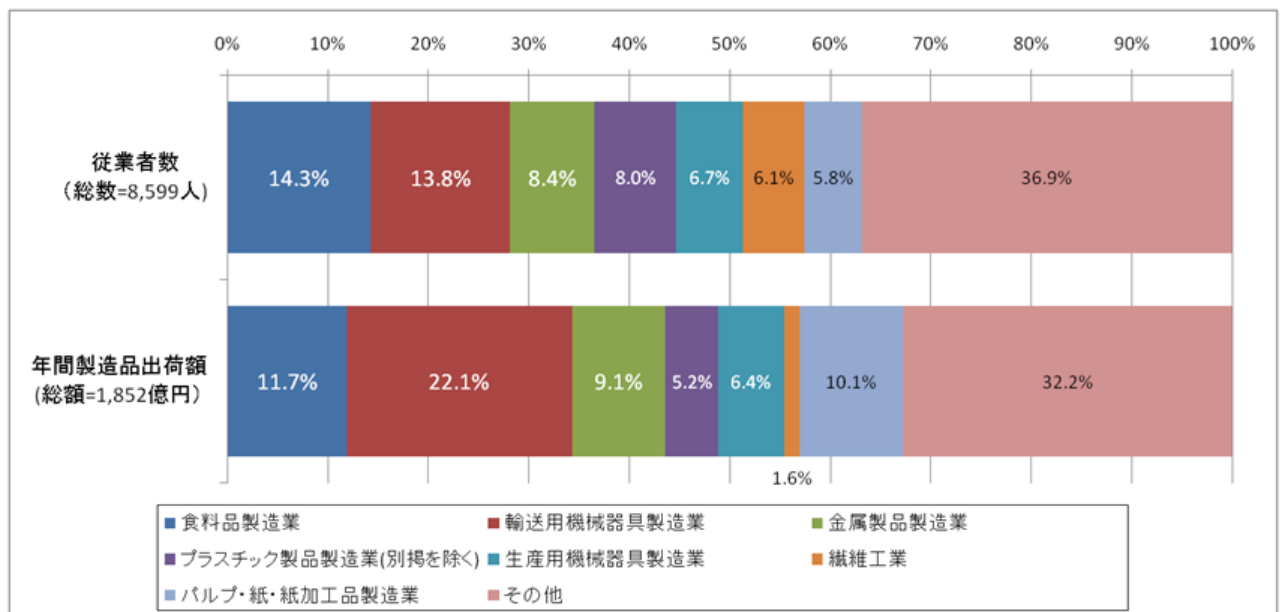


図.製造業の従業者数・年間製造品出荷額の内訳

出典:工業統計(H20)

土地利用

土地利用の現況

- ・岩槻区は市街化調整区域の占める割合が高く、区の面積の8割近くが調整区域である。
- ・市全体と比較すると、田の占める割合が高く、住宅地・道路用地の占める割合が低い。
- ・岩槻中心部から2 km 程度離れると岩槻南部地域や見沼田圃に連なる広大な田園地帯が広がっている。

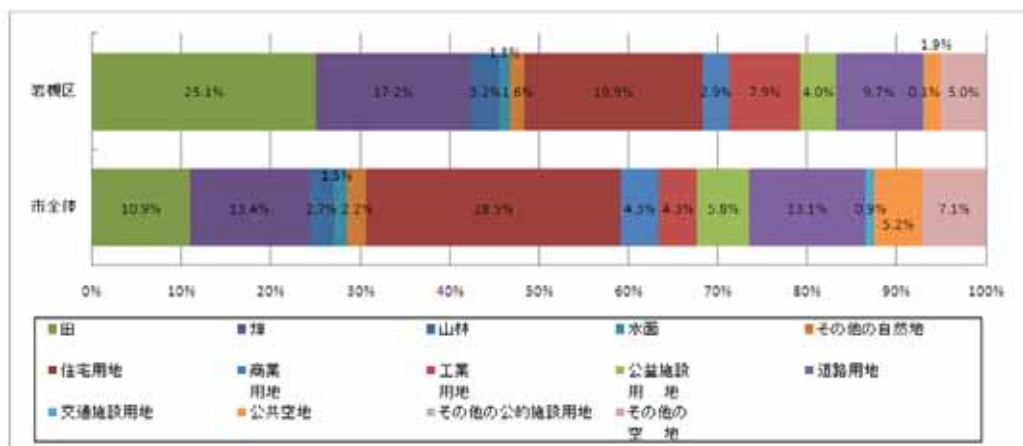
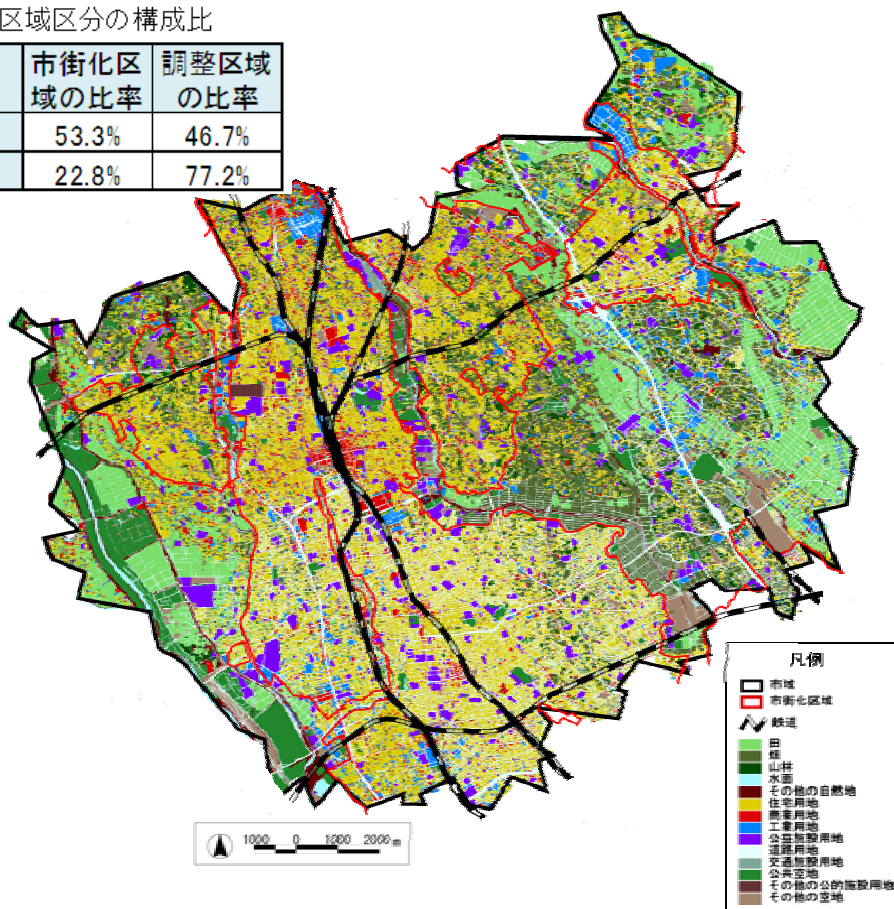


図.土地利用の現況

出典:さいたま市調べ(H17)

表.区域区分の構成比

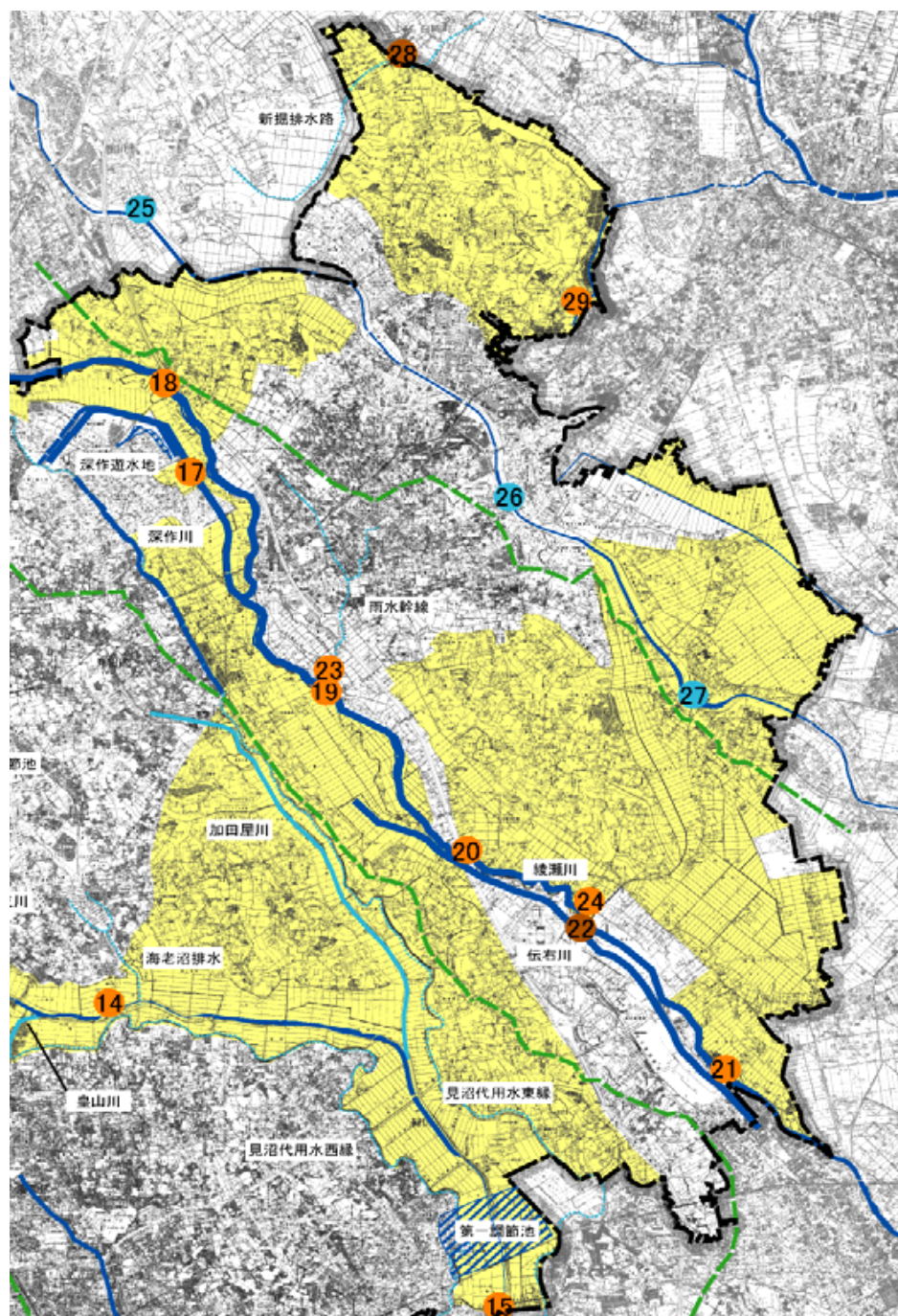
	市街化区域の比率	調整区域の比率
市全体	53.3%	46.7%
岩槻区	22.8%	77.2%



出典: H17 都市計画基礎調査を元に作成

農振地域の指定状況

・岩槻区は、市街化調整区域の多くが農業振興地域で、農用地区域に指定されている。



黄色の部分が農業振興地域

図 農業振興地域の分布

出典：さいたま市田園環境整備マスタープラン

2) 岩槻の強み、弱み

豊かな歴史・文化資源

文化財

- ・国指定の真福寺貝塚や古式土俵入りを始め、多様な歴史・文化資源を持つことが大きな特長である。
- ・指定文化財は、44件を数え、市全体の約8%を占めている。
- ・歴史・文化資源は、旧城下町である本町を中心に分布しており、いくつかの散策ルートが設定されている。

表. さいたま市内所在指定文化財件数内訳

	国指定文化財	国登録有形文化財	県指定文化財	市指定文化財	合計
市全体	10	6	73	441	530
(うち岩槻区)	2	1	7	34	44
(岩槻区占有率)	20.0%	16.7%	9.6%	7.7%	8.3%

表. 国登録文化財一覧

名称	種別
真福寺貝塚	国指定史跡
岩槻の古式土俵入り (笹久保地区・釣上地区)	国指定無形民俗文化財
東玉大正館(旧中井銀行岩槻支店)	国登録有形文化財

出典:さいたま市調べ

図. 岩槻中心部散策マップ



出典:岩槻区HP、文化財マップ

主な指定文化財



慈恩寺



真福寺貝塚



玄奘塔



岩槻郷土資料館



長谷川家見世蔵



東玉大正館(旧中井銀行岩槻支店)



遷喬館



時の鐘



龍門寺



愛宕神社・岩槻城大構え



黒門



指定文化財ではないが、城下町を偲ばせる空間的資源が所々にある



シンボル道路整備事業で整備されたメインストリート



鈴木酒造



祭り・行事

・国指定無形民俗文化財の「古式土俵入り」を始め、歴史・文化にちなむ多様な祭り・行事が1年を通じて行われている。

祭り・行事	開催時期
人形のまち岩槻 まちかど雑めぐり	3月上旬～3月下旬
桜まつり	3月下旬～4月上旬
流しびな	4月29日
人形のまち岩槻まつり	8月下旬
古式土俵入り	9月中旬・10月下旬
人形供養祭	11月3日
岩槻区民やまぶきまつり	11月中旬



出典：岩槻区HP



豊かな自然環境

周辺部の自然資源

・岩槻区は元荒川・綾瀬川周辺の水田地帯を始め、北部や南部の一角には雑木林・屋敷林・農地が混在し、台地を囲むように斜面林が連続しているなど、豊富な自然環境に恵まれている。

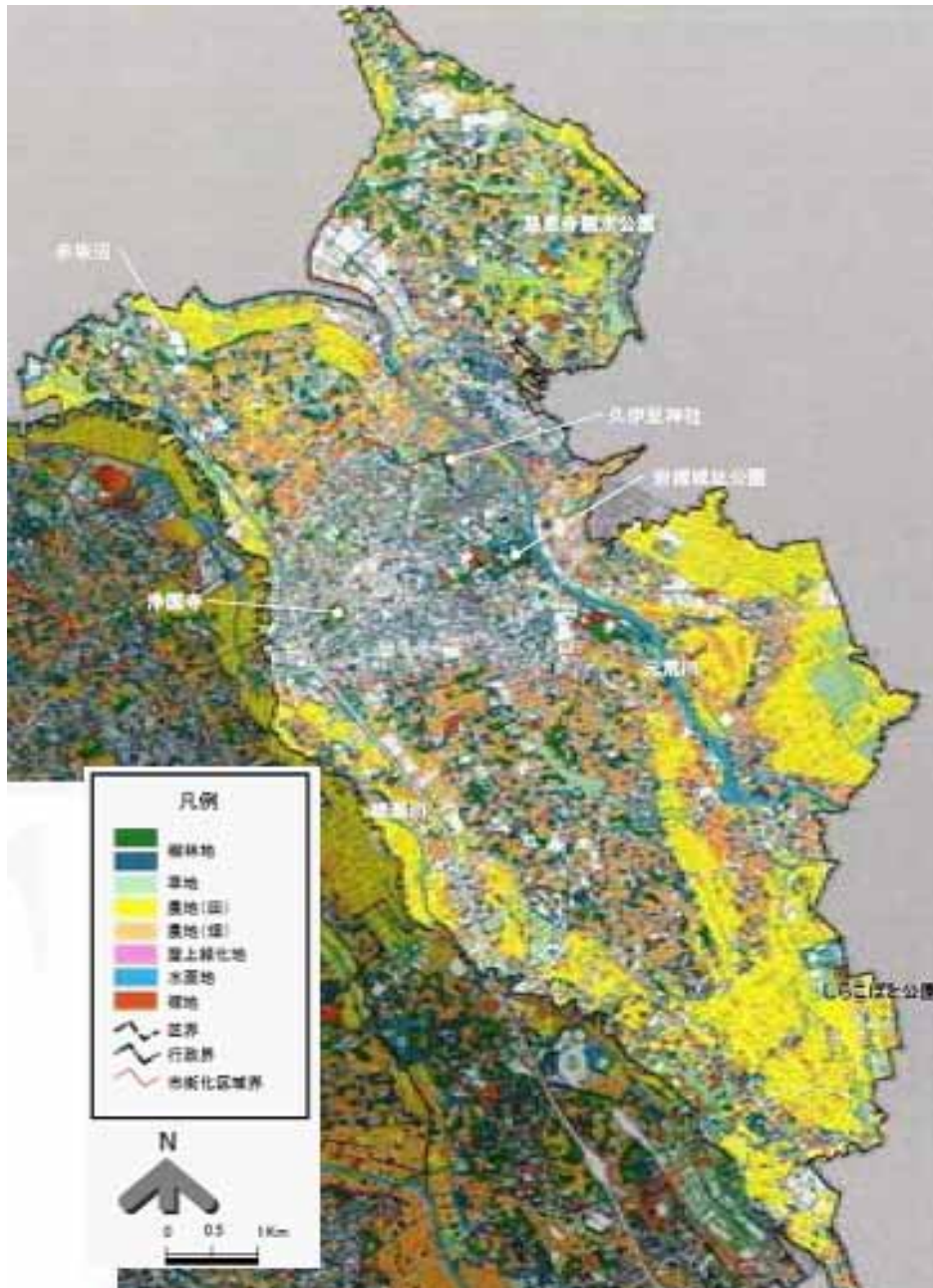


図. 自然環境の分布状況

出典：さいたま市緑の基本計画

市街地周辺の緑環境

- ・岩槻区は元荒川・綾瀬川周辺の水田地帯を始め、北部や南部の一带には雑木林・屋敷林・農地が混在し、台地を囲むように斜面林が連続しているなど、豊富な自然環境に恵まれている。

表.1人あたり公園面積

	1人あたり公園面積(m ² /人)
岩槻区	5.47
さいたま市	4.94

出典:さいたま市都市計画マスタープラン(H17)



図.岩槻城址公園



図.岩槻文化公園

出典:さいたま市HP

大都市内の農業

農業の現状

- ・岩槻区及びさいたま市では、ここ10年間で総農家数が減少傾向で推移している。
- ・市全体と比較すると、減少の傾向は緩やかである。

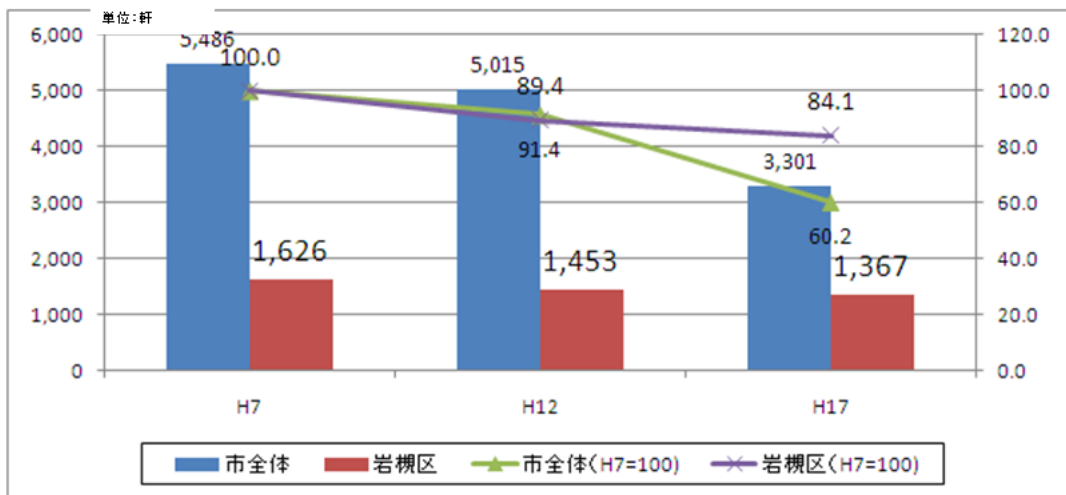


図.農家数の推移

出典:農業センサス

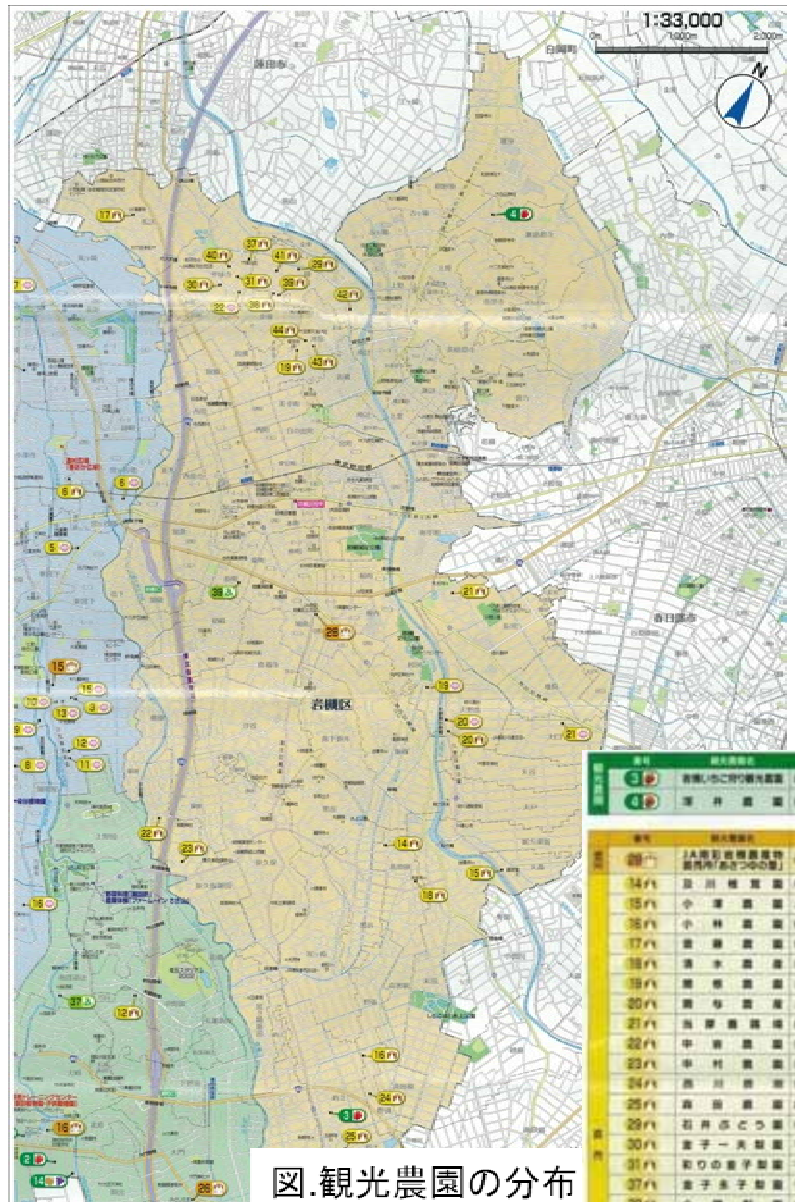
都市と農業の連携

- ・岩槻区及びさいたま市では、ここ10年間で総農家数が減少傾向で推移している。
- ・市全体と比較すると、減少の傾向は緩やかである。
- ・岩槻区の主要農産物には、岩槻ねぎ、トマト、ほうれん草、小松菜クワイ、山東菜などがある。
- ・これら豊富な農産物を観光に活かす取り組みも進んでいる。



図・農業を観光に活かす取組の新聞記事

出典：日本経済新聞記事



図・観光農園の分布

番号	農園名称	住所
1	【大田町】岩槻ねぎ農園	岩槻区大田町1-4-2
2	岩槻ねぎ農園	岩槻区大田町1-12-1
3	小津農園	大田町2
4	小林農園	岩槻区大田町1-195-1
5	清水農園	岩槻区大田町1-150
6	藤原農園	岩槻区大田町1-1
7	藤原農園	大田町272
8	海老原農園	岩槻区大田町1-108-1
9	中野農園	岩槻区大田町1-188
10	幸村農園	岩槻区大田町1-74
11	藤原農園	岩槻区大田町1-195
12	藤原農園	岩槻区大田町1-188
13	花井ぶどう園	岩槻区大田町1-10
14	金子一太郎農園	岩槻区大田町1-72
15	岩槻の金子農園	岩槻区大田町1-102
16	金子金子農園	岩槻区大田町1-100
17	小園農園	岩槻区大田町1-100
18	清水農園	岩槻区大田町1-100
19	藤原農園	岩槻区大田町1-100
20	藤原農園	岩槻区大田町1-100
21	藤原農園	岩槻区大田町1-100
22	藤原農園	岩槻区大田町1-100
23	藤原農園	岩槻区大田町1-100
24	藤原農園	岩槻区大田町1-100
25	藤原農園	岩槻区大田町1-100
26	藤原農園	岩槻区大田町1-100
27	藤原農園	岩槻区大田町1-100
28	藤原農園	岩槻区大田町1-100
29	藤原農園	岩槻区大田町1-100
30	藤原農園	岩槻区大田町1-100
31	藤原農園	岩槻区大田町1-100
32	藤原農園	岩槻区大田町1-100
33	藤原農園	岩槻区大田町1-100
34	藤原農園	岩槻区大田町1-100
35	藤原農園	岩槻区大田町1-100
36	藤原農園	岩槻区大田町1-100
37	藤原農園	岩槻区大田町1-100
38	藤原農園	岩槻区大田町1-100
39	藤原農園	岩槻区大田町1-100
40	藤原農園	岩槻区大田町1-100
41	藤原農園	岩槻区大田町1-100
42	藤原農園	岩槻区大田町1-100
43	藤原農園	岩槻区大田町1-100
44	藤原農園	岩槻区大田町1-100
45	藤原農園	岩槻区大田町1-100

出典：さいたま市農情情報ガイドブック（H22年度版）

まちを支える交通

鉄道

- ・東武野田線の2駅が存在するが、鉄道の利便性は高くない。
- ・埼玉高速鉄道の浦和美園駅から岩槻駅までの延伸計画がある。



バス網とサービス水準

- ・鉄道網を補完するため、区の南北方向のバス網が形成されている
- ・また、広域的な交通結節点である大宮駅への幹線バス網も形成されている。

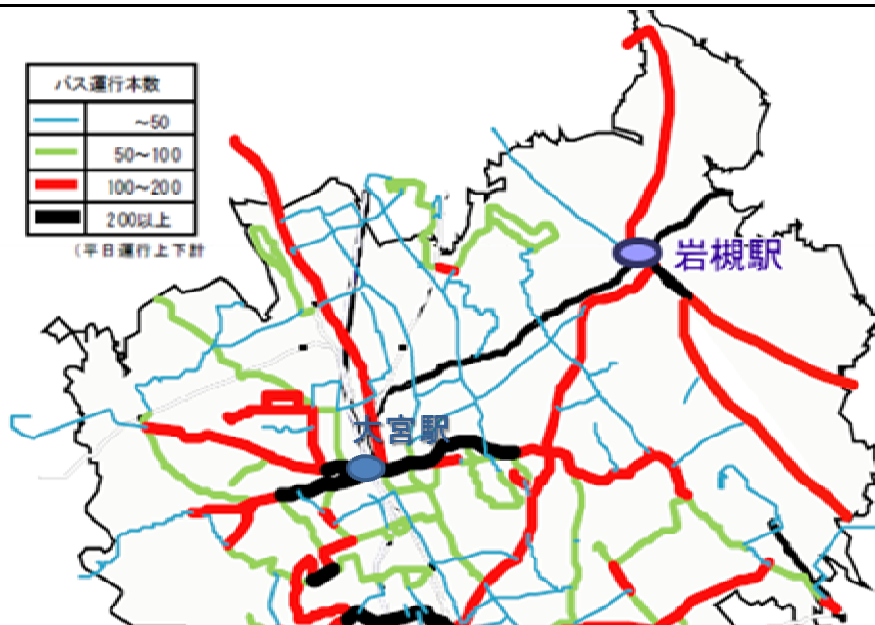


図.バス網とサービス水準

出典：さいたま市公共交通ネットワーク基本計画（H18）

公共交通空白地帯及び不便地帯

- ・岩槻駅及び東岩槻駅の徒歩圏の外側に位置する市街地において、公共交通不便地区(公共交通サービスの圏域内に含まれているが運行本数の少ない地区)が分布している。
- ・上記よりさらに外側の市街地で公共交通空白地区(鉄道駅又はバス停より300m圏外の地区)も見られる。

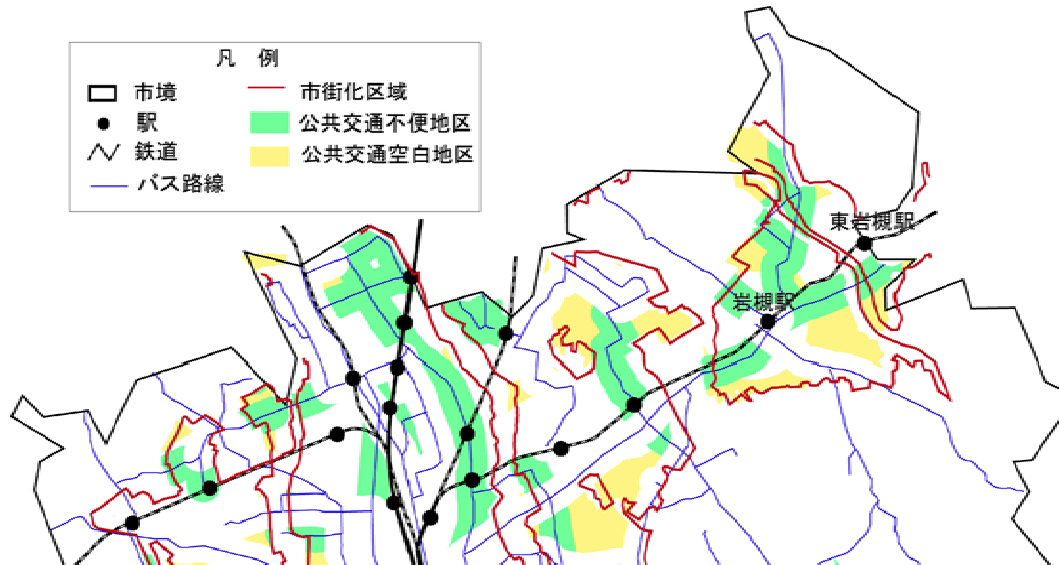


図.公共交通空白地帯及び不便地帯の状況

出典：さいたま市公共交通ネットワーク基本計画（H18）

市内鉄道駅乗降客数の内訳

- ・岩槻駅の乗降客数は約3.6万人/日であり、さいたま市の副都心の中では、武蔵浦和、宮原駅に次いでおり、宮原駅よりやや少ない程度である。
- ・東武野田線の駅の中では、大宮駅に次いで乗降客数が多い。

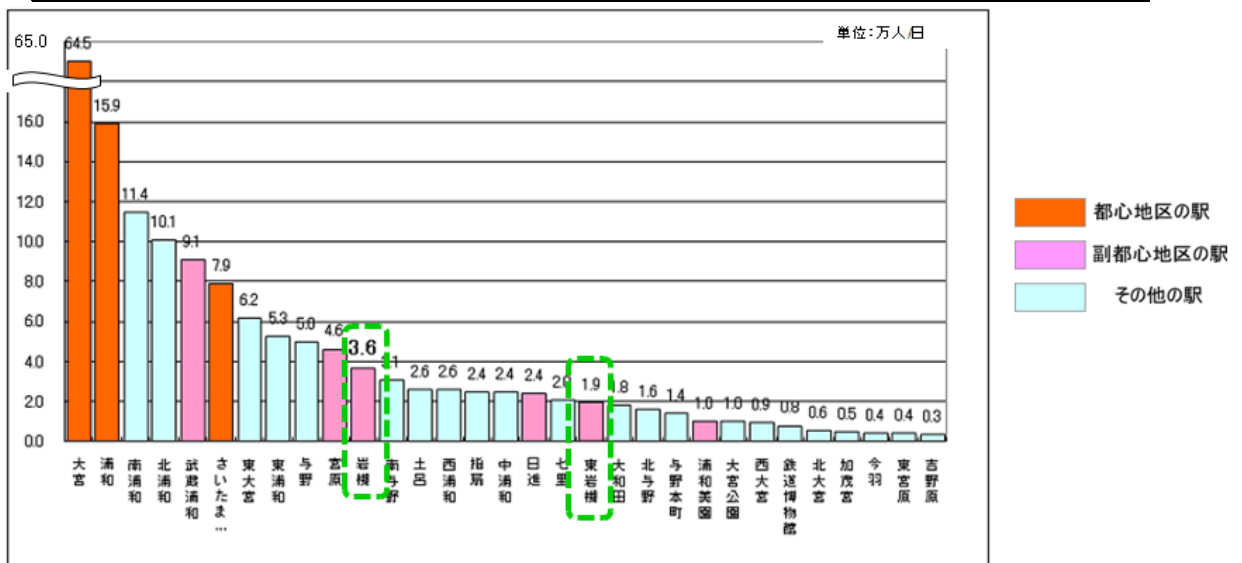


図.駅別の乗降客数

出典：さいたま市内各駅乗降客数一覧(H22.3)

・岩槻区全体の現況のまとめ

後記する岩槻区全体の現況等を踏まえ、以下では項目別に現状をまとめる。

1)人口

- ・岩槻区の人口は平成 22 年 11 月現在約 112,600 人であり、さいたま市の総人口の 9.1%を占めている。
- ・岩槻区の年齢構成は、さいたま市内で少子高齢化が最も進行している。
- ・また、生産年齢人口の減少も進行している。

2)交通

- ・自動車登録台数(平成 16 年)について旧さいたま市と旧岩槻市を比べると、旧岩槻市は自動車、軽自動車ともに 1 世帯当たりの登録台数が多く、自動車への依存度が高い区となっている。

3)既存産業

- ・工業系の施設は、岩槻区北部や中央部から南部にかけて立地している。
- ・中間駅設置が予定される区域周辺は、小規模な工場が県道蒲生岩槻線や国道 122 号沿道に立地している。
- ・業種別では、配送センター等の車利用型施設が多い。

4)学校区

- ・岩槻区の小学校区は 14 学区あり、中間駅周辺は柏崎小学校区・和土小学校区、城南小学校区に含まれている。
- ・岩槻区の中学校区は 8 学区あり、中間駅周辺は柏陽中学校区に含まれている。

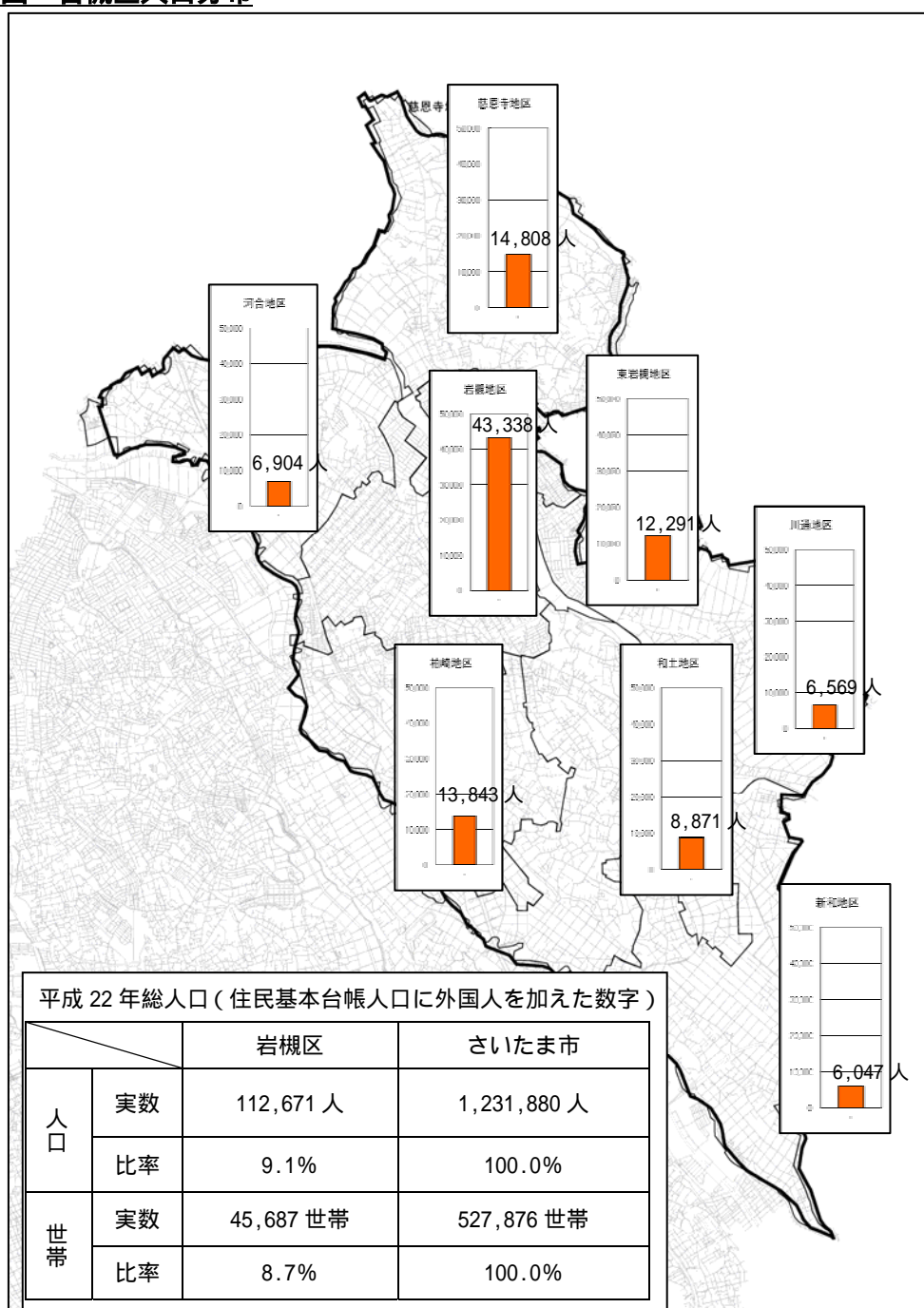
5)土地利用規制

- ・東武野田線岩槻駅を中心に市街化区域が指定され、岩槻区北部と南部は市街化調整区域となっている。
- ・市街化調整区域の大部分は、農業振興地域の農用地が指定されている。
- ・斜面地やまとまった樹林地が残存する地区には、森林地域の地域対象民有林が指定されている。
- ・東北自動車道(国道 122 号)沿線や岩槻区南部付近に湛水区域があり、湛水深は 0.25m ~ 0.50m となっている。

岩槻区の人口分布図(平成 22 年 11 月 1 日現在)

- ・岩槻区の人口は、平成 22 年 11 月現在約 112,600 人で、さいたま市の総人口の 9.1%を占めている。
- ・区の中心部に位置する岩槻地区が一番多く 43,338 人となっている。
- ・岩槻地区から離れるに従い人口も減少していく傾向にある

図 岩槻区人口分布

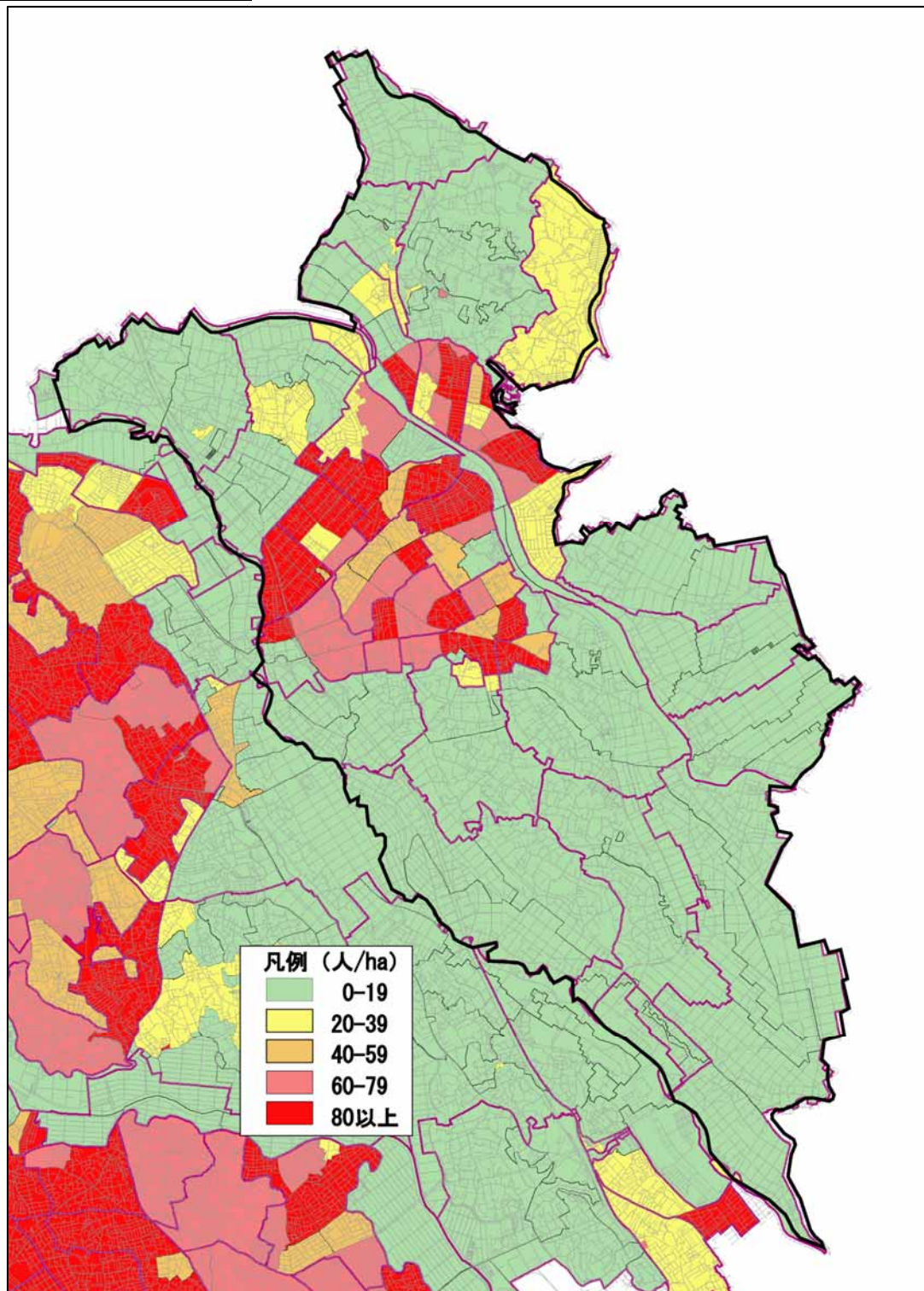


(資料：平成 22 年住民基本台帳)

岩槻区の人口密度図（平成17年）国勢調査

- ・岩槻地区、東岩槻地区の人口密度が高く 60 人/ha 以上が多くの部分を占めている。
- ・岩槻地区と東岩槻地区以外は人口密度が低い。

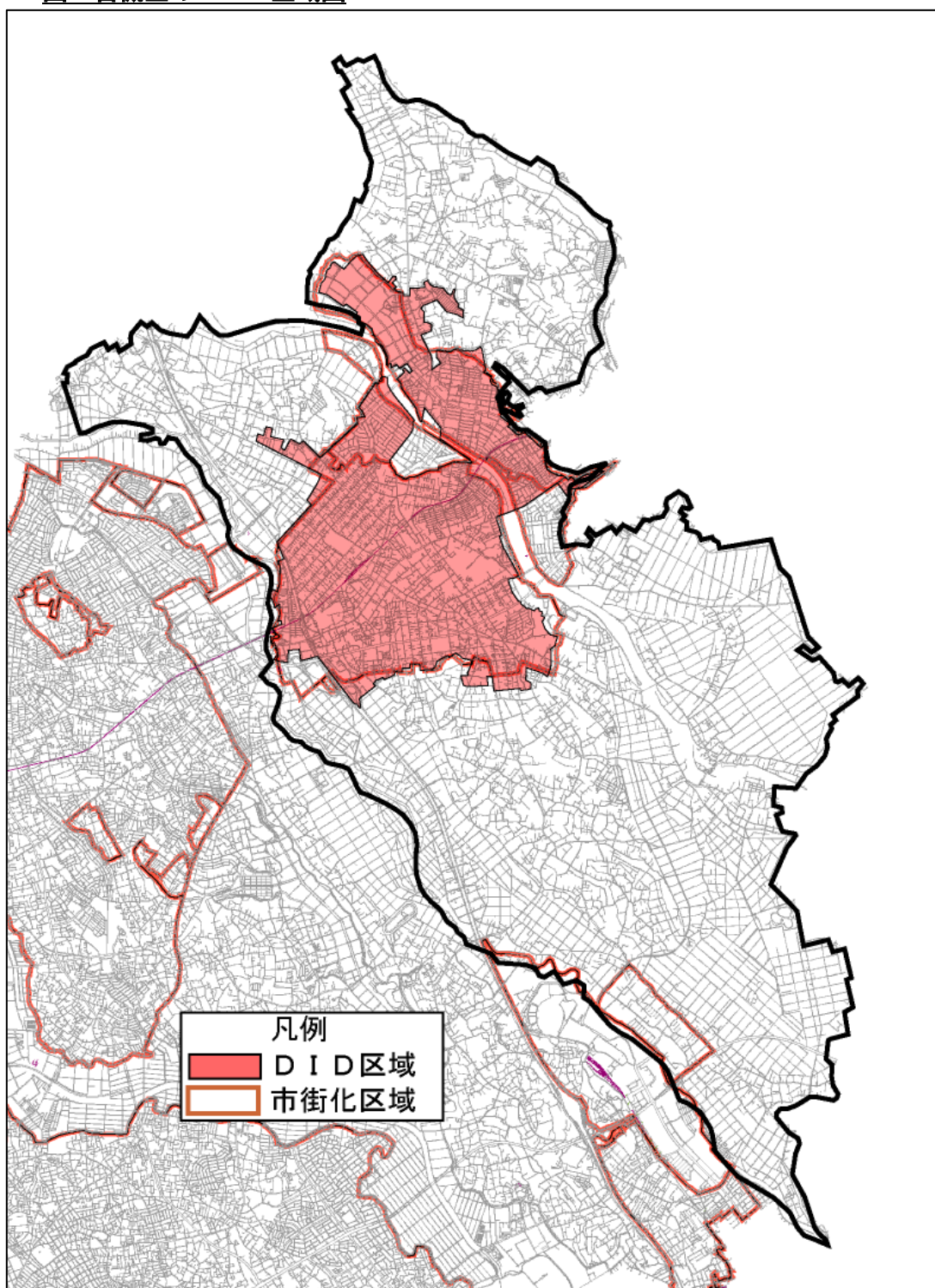
図 岩槻区の人口密度



岩槻区の DID 区域図

- ・岩槻駅を中心に、東武野田線沿線に DID 区域が広がっている。
- ・DID 区域と市街化区域はほぼ同区域となっている。
- ・岩槻地区、東岩槻地区以外の地区は、DID 区域外である。

図 岩槻区の DID 区域図

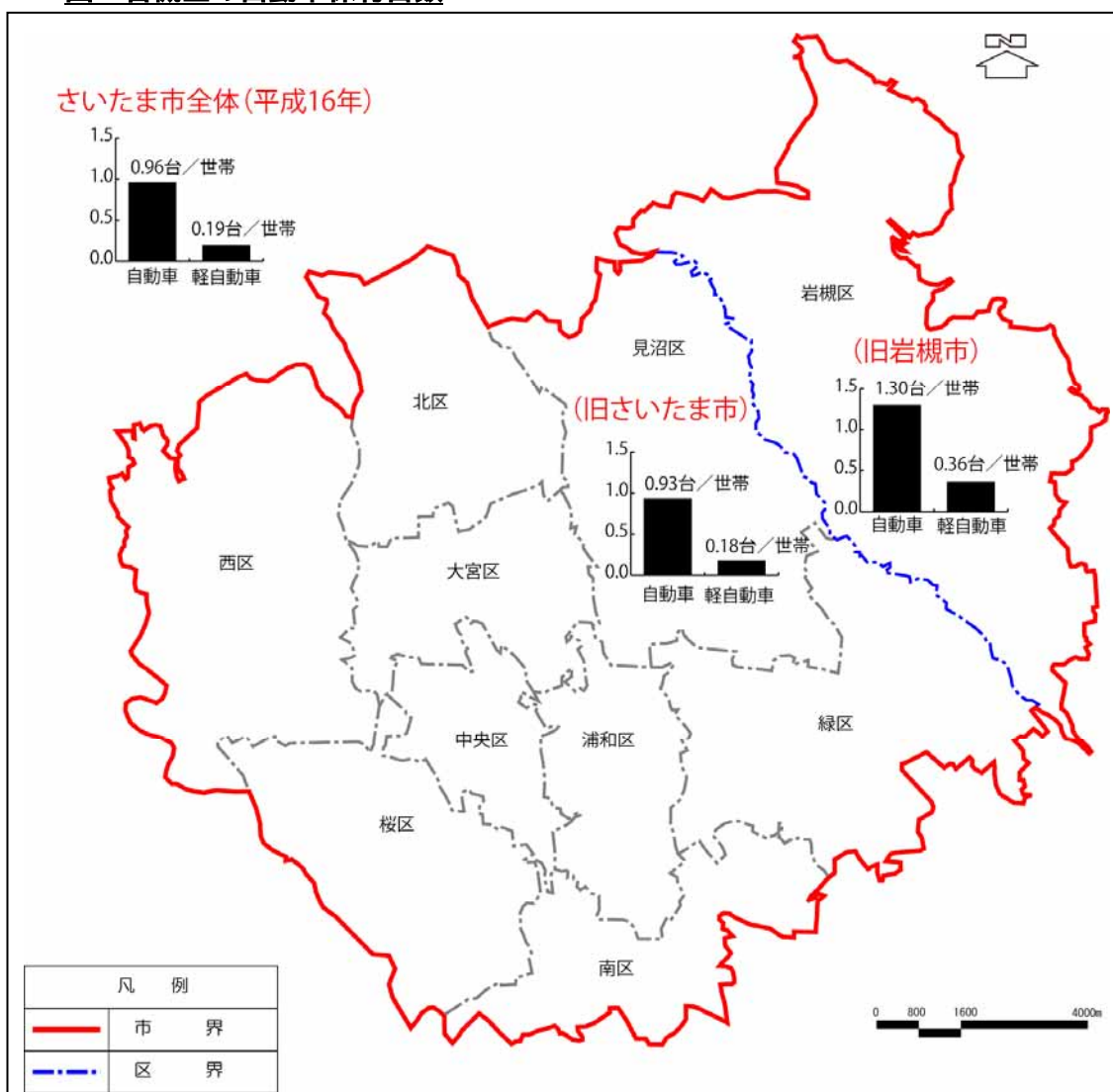


(資料：平成 17 年都市計画基礎調査)

岩槻区の自動車保有台数（他区との比較）

- ・旧岩槻区と旧さいたま市を比べると、旧岩槻区は自動車、軽自動車ともに1世帯当たりの登録台数が多い。
- ・旧岩槻区の自動車依存度の高さが確認できる。

図 岩槻区の自動車保有台数



一世帯当たり自動車登録台数（平成16年）

各年3月31日

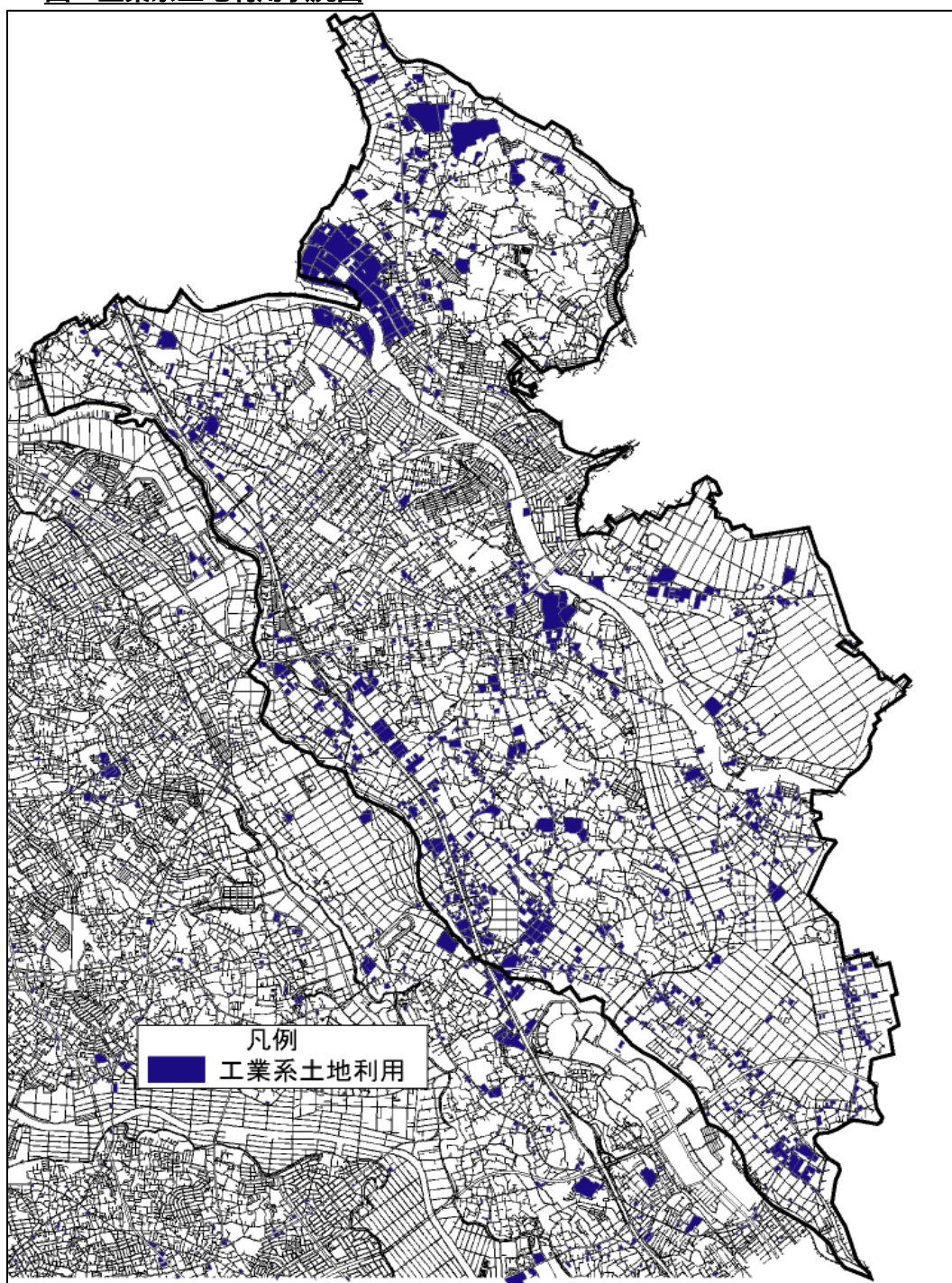
年	区分	世帯数 (世帯)	登録台数		一世帯当たり自動車台数	
			自動車 (台)	軽自動車 (台)	自動車 (台)	軽自動車 (台)
平成16年	旧さいたま市	431,099	401,009	76,674	0.93	0.18
	旧岩槻市	41,718	54,084	14,963	1.30	0.36
	さいたま市全体	472,817	455,093	91,637	0.96	0.19

（資料：さいたま市統計書 - 平成17年版）

工業系土地利用の状況

- ・工業系の土地利用は、岩槻区北部と中央部から南部にかけて立地している。
- ・慈恩寺地区は、一団の工業系土地利用が確認される。

図 工業系土地利用状況図

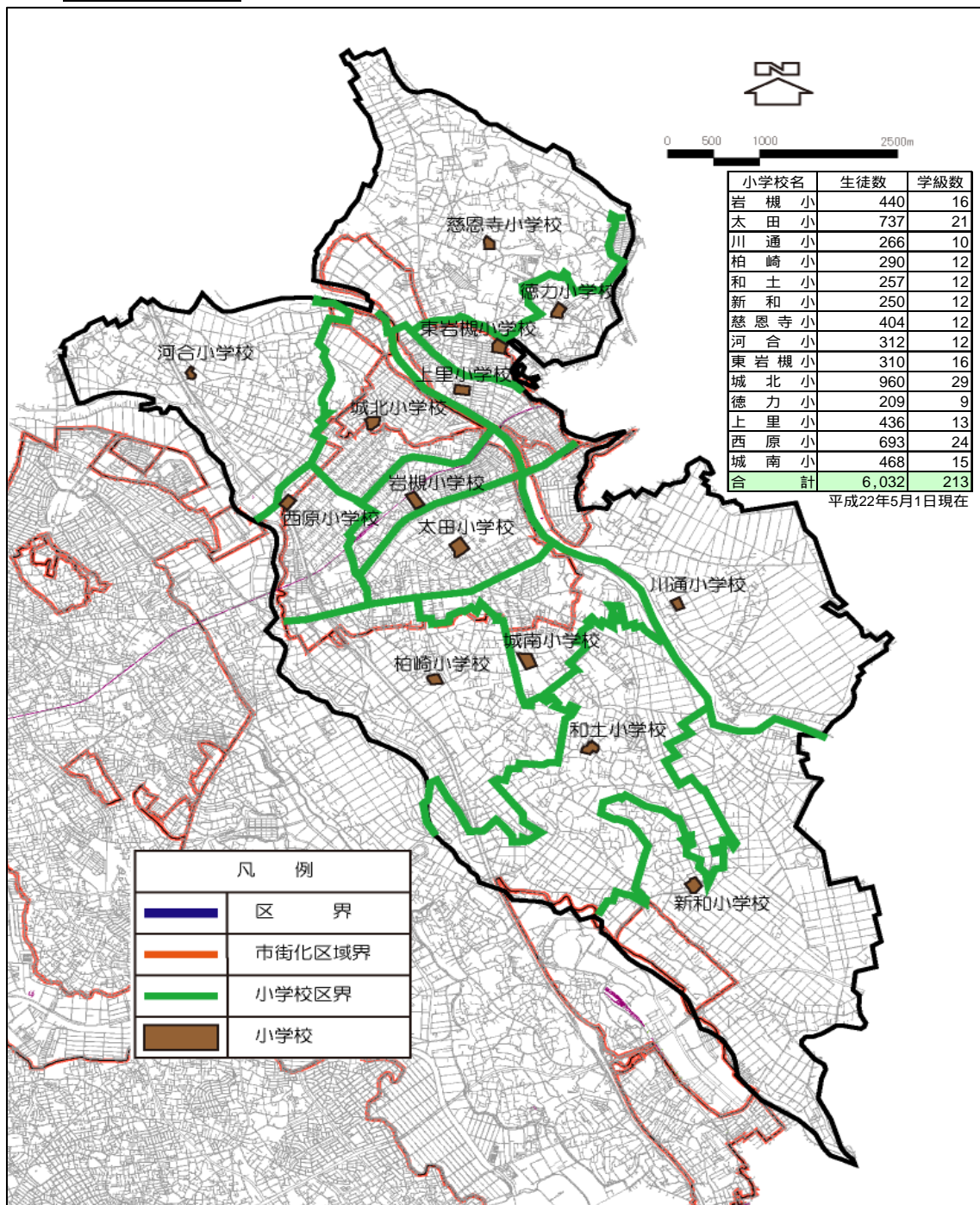


(資料：平成 17 年都市計画基礎調査)

岩槻区の小学校区図

・岩槻区の小学校区は、14学区に区分されている。

図 小学校区図

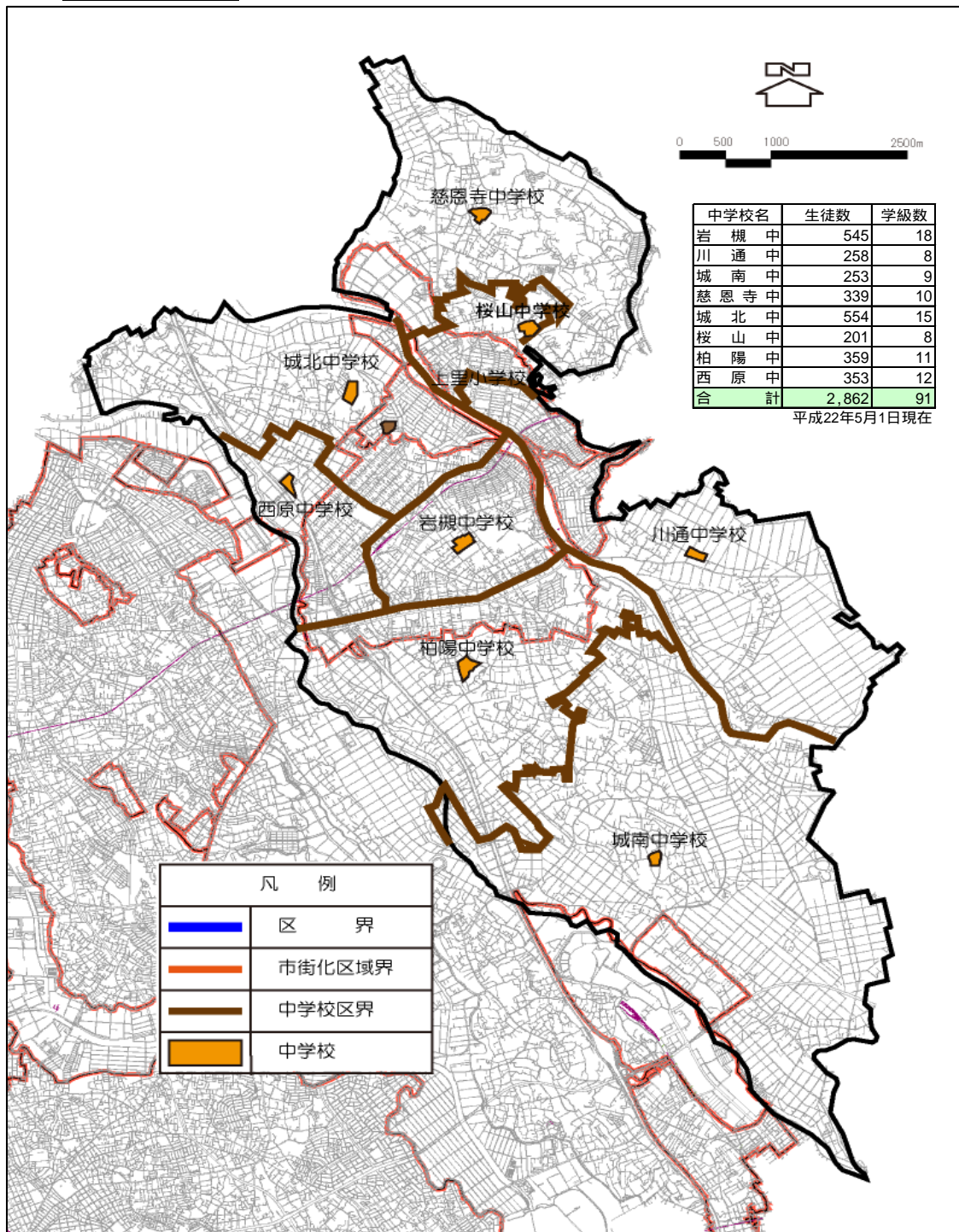


(資料：さいたま市教育委員会資料)

岩槻区の中学校図

- ・岩槻区の中学校区は、8学区に区分されている。

図 中学校区図

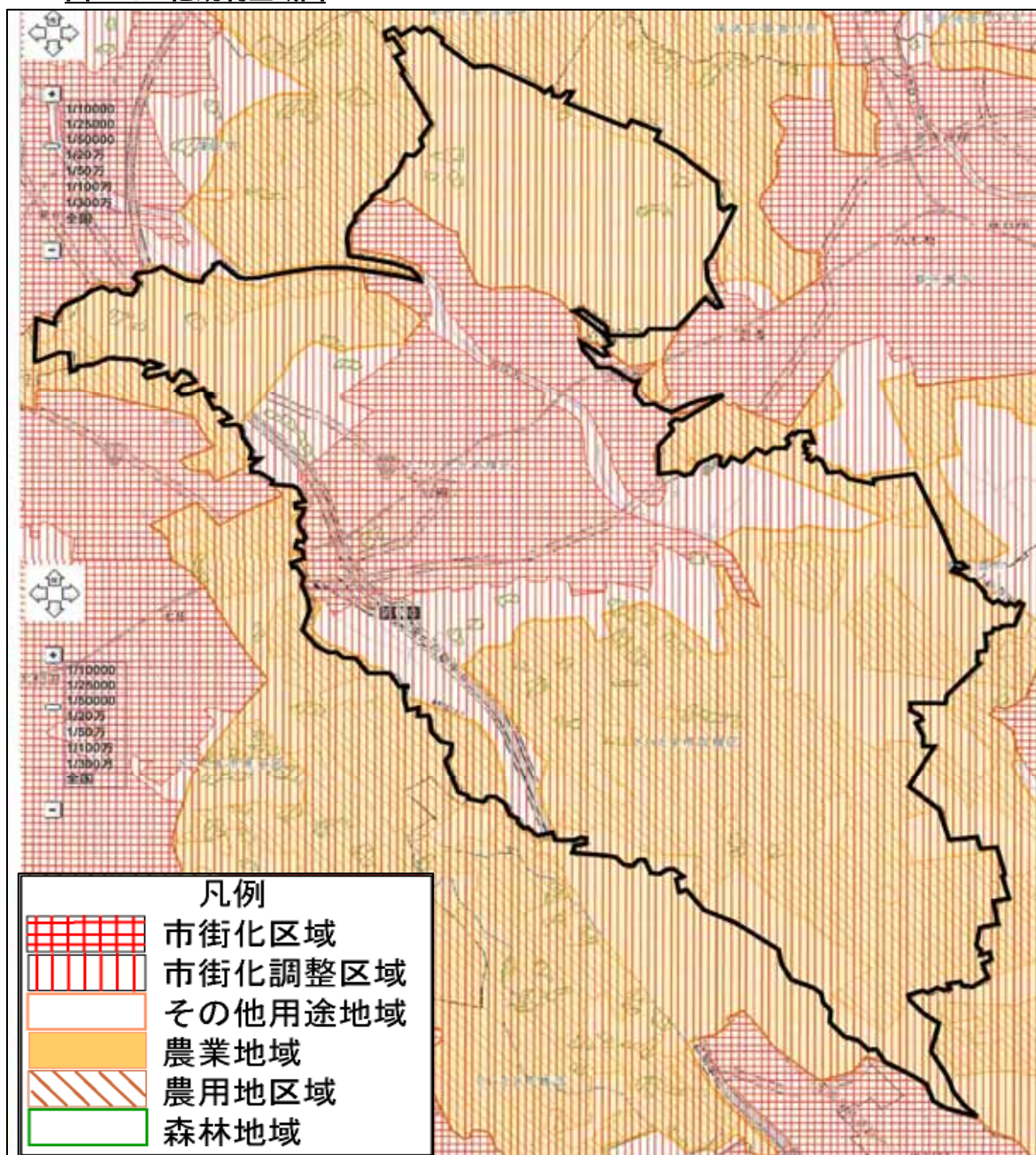


(資料：さいたま市教育委員会資料)

その他規制区域図（国土利用計画からの抜粋）

- ・東武野田線の岩槻駅を中心に市街化区域となっており、それ以外の岩槻区北部と南部は市街化調整区域である。
- ・市街化調整区域の大部分は農業地域に指定されている。

図 その他規制区域図

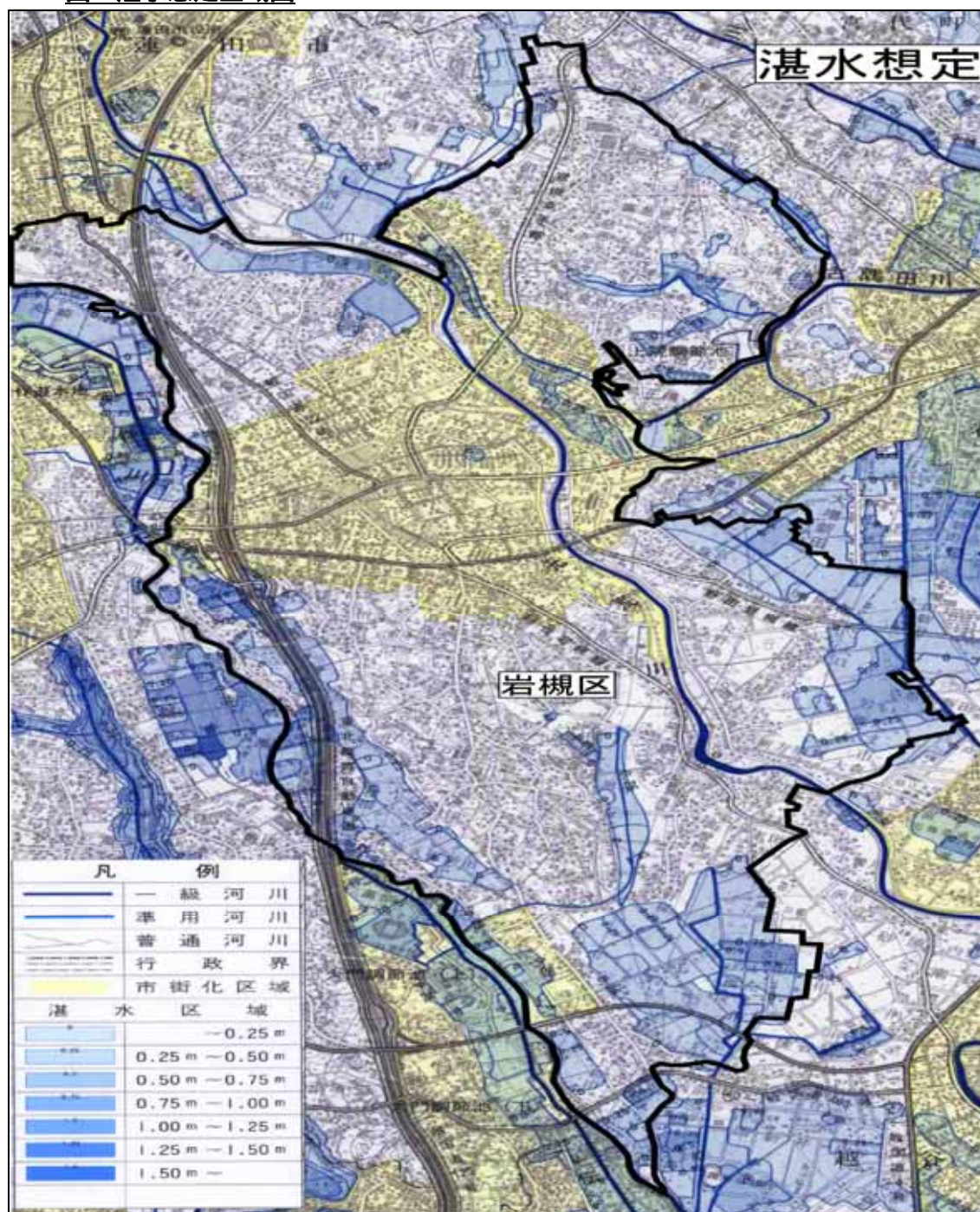


（資料：国土利用計画）

その他規制区域図（湛水想定区域からの抜粋）

- ・東北自動車道沿線や岩槻区南部付近に湛水区域があり、湛水深は 0.25m～0.50 mである。

図 湛水想定区域図



（資料：湛水想定図埼玉県資料）